

滋賀県 死生懇話会 関連企画

トークイベント in 滋賀県立美術館

DEATH AND LIFE

SOCIAL MEETING

美術作品から見る「死生観」

滋賀県では、誰もが避けられない「死」とどう向き合い、そこから限りある「生」をどう捉えるか、そういった根源的なテーマを真正面から考えることで、より豊かに生きるためのヒントを得ようと「死生懇話会」を設置して、取組をしています。

人間にとっていつの時代も共通で、永遠の課題である「生」と「死」。人間の生と死は、美術の中でどういう捉え方がされてきたか、美術作品でどう表現されているのか、より豊かに生きようとして作品に込められた思いから、今を生きるヒントを探ってみたいと思います。

今回は「死生懇話会」関連企画としてトークイベントを実施。2021年にリニューアルオープンした「滋賀県立美術館」で展示中の作品も紹介しながら、出演者による楽しく自由なトークが展開されます。これを聴いた方は、美術作品が少し変わって見えるかも！？

日時・場所 2022年1月30日(日)

滋賀県立美術館 1階「木のホール」
滋賀県大津市瀬田南大萱町1740-1

14:00~15:00

出演者(予定)

- 滋賀県立美術館ディレクター(館長)
保坂 健二郎
- 滋賀県知事 三日月大造
- 龍谷大学農学部植物生命科学科准教授、僧侶
打本 弘祐さん ※「死生懇話会」委員
- 滋賀県立大学 地域共生センター 講師
上田 洋平さん ※「死生懇話会」ファシリテーター

定員

70名(先着)

参加費

無料

※開催中の保坂ディレクターが企画した展示「人間の才能 生みだすことと生きること」を鑑賞される場合は、観覧料(一般1,300円)が必要です。会場でチケットを購入してください。

お申し込み方法 2022年1月25日(火) 〆切

郵送・FAX・メールでのお申し込み

住所・氏名・電話番号・メールアドレス(任意)
「美術館トークイベント」参加と記載のうえ、
郵送・FAX・メールのいずれかで以下までお申し込みください。

システムでのお申し込み

しがネット受付システム(以下のURLまたはQRコード)からお申込みください。
<https://ttzk.graffer.jp/pref-shiga/smart-apply/apply-procedure/8974621321194720027>



主催・お申し込み先 滋賀県 総合企画部 企画調整課(企画第二係)

E-Mail: kikaku02@pref.shiga.lg.jp TEL: 077-528-3312

FAX: 077-528-4830 〒520-8577 滋賀県大津市京町4-1-1



Shiga Museum of Art

滋賀県立美術館 かわる かわる ミュージアム



「公園のなかのリビングルーム」「リビングルームのような美術館」を目指すべき姿として、2021年にリニューアルした滋賀県立美術館。あらたまった空間から、くつろぎの場所へと、時代とともに変化していく美術館にぜひお越しください。

開館時間 9:30～17:00 休館日 毎週月曜ほか

●公共交通でお越しの場合

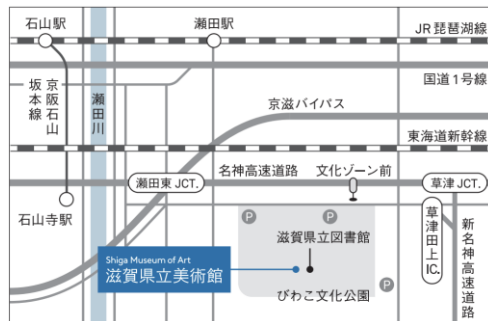
JR「瀬田駅」で下車。路線バスに乗り換え「文化ゾーン前」で下車（約10分）。バス停より徒歩約5分

※帝産バス（1番のりば）/近江鉄道バス（2番のりば）から「滋賀医大」「大学病院」行き

●お車をご利用の場合

新名神高速道路「草津田上インター」より約5分

びわこ文化公園駐車場（無料）に駐車いただき、美術館まで徒歩約5分



このイベントの日に鑑賞できる展示です！

展示のご紹介

「野口謙蔵生誕120年展」2021年12月7日(火)～2022年2月20日(日) 当日無料



野口謙蔵《五月の風景》1934年
滋賀県立美術館蔵

滋賀県蒲生郡（現・東近江市）出身の野口謙蔵（1901-1944）は、東京美術学校（現・東京藝術大学）で洋画を修めると故郷に戻りますが、その作品には時に「近江野謙（おうみのけん）」とサインするほど、終生近江の風景を愛し、描き続けました。生誕120年の節目の年にあたり、本展では収蔵品と地域に伝わる関連資料を中心に紹介します。

「昔の滋賀の暮らし」2021年12月7日(火)～2022年2月20日(日) 当日無料

郷土ゆかりの作家が手がけた風俗画や風景画の中には、当時の人々の生活文化が描かれていることがあります。例えば沢宏朝《牟始風呂》には、滋賀県に伝わっていた一種のサウナ風呂や様々な風習が正確に描き込まれています。本展では明治、大正、昭和期に制作された絵画作品をもとに、今では珍しくなった滋賀の暮らしを紹介します。



沢宏朝《牟始風呂》1933年
滋賀県立美術館蔵

「人間の才能 生みだすことと生きること」2022年1月22日(土)～3月27日(日)

時流にとらわれず、つくりたいからつくるという真摯な欲求に基づき、独自の方法論で生み出された作品、それがアール・ブリュットです。本展には、すでに国内外で知られる澤田真一、古久保憲満、井村ももか、藤岡祐機に加えて、鶴飼結一朗など近年注目を集める作家が出品。多様な作品を楽しめるだけでなく「なぜ人はつくるのか」という根源的な問いを考える場となります。



澤田真一《お面》2014年
滋賀県立美術館蔵

死生懇話会について

滋賀県では、誰もが避けられない「死」について真正面から考えることで、限りある「生」をより一層充実させるヒントを得ようと、様々なお立場やご専門の方からなる「死生懇話会」を2020年12月に設置しました。

この懇話会は、どう生きるのが良いかといった価値観を押し付けるものではなく、「死」や「生」の捉え方等についての様々な考え方や取組の情報を発信していくことで、それに触れた方それぞれのアンテナにひっかかる“何か”を見つけていただき、より豊かに生きることのヒントを見つけていただけるものになりたいという思いで開催してきました。「死」をタブー視せず真摯にみつめ、「生」を考えること。そのことが滋賀県基本構想の理念とする「変わる滋賀 続く幸せ」の実現につながるよう、皆さんと議論を深めていきます。

〈死生懇話会 ～「死」を捉えた「生」のあり方を考えるヒントに～（県ホームページ）〉

滋賀県では、死生懇話会のご紹介とあわせて、「死」「生」に関する様々な取組、考え方について色々な方にインタビューさせていただいた取材記事等を県ホームページでご紹介しています。

URL : <https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/kenseiunei/kousou/316588.html>



新型コロナウイルス感染症の影響により開催内容を変更、または中止させていただく場合があります。その場合、滋賀県HPでお知らせするとともに、お申し込みいただいたご連絡先にご連絡します。